

全国学校飼育動物研究大会から

「モルモットが不登校児救う」奈良・香芝市立下田小学校

8月25日、東京都内で開催された全国学校飼育動物研究大会。奈良県香芝市立下田小学校の芳倉優富子教諭は、保健室登校する児童への対応策としてのモルモット飼育実践を発表した。

実践の対象となったのは当時小学3年生(現在4年生)の女の子。母子分離不安を抱え、2年生まで母子登校していた。3年生からは保健室登校となり、2学期からは通学中に動けなくなるという症状が出始めた。

この状態の解消法として同教諭はモルモットの飼育を考えた。学校に来る意味を与えるためだ。

本人に確認すると「やりたい」と返答があった。そこで知人から生後40日のモルモットを譲り受け、飼育を開始した。

開始するに当たり、児童には「赤ちゃんだから毎日世話をする」という条件を提示。毎日学校に来る目的を与えた。また、月曜の登校が困難という同児童の問題については「土日は児童宅で世話。学校のモルモットだから月曜には連れてくる」という条件を提示した。

飼育してすぐに効果が表れた。通学中に動けなくなる症状が緩和され、スムーズに登校できるようになった。4年生になった現在は、問題なく通学できているという。また、不登校解消だけでなく、集団登校時の副リーダーに立候補するなど立候補するなど積極性も生まれてきた。

この成果について同教諭は、「心理的に無条件で受容してくれるモルモットという存在が、児童の心を安定させた。また、育てたということが、児童の自信につながった」と考察している。